

2,704^{P-1/6} 2704^{P-1/6} 「ヒビのうた」 中野喜直19^P 2704^{P-1/6} 紀上134^P

凱旋 かいせん

中国 ちゅうごく 日 ひ 拘 か 母 め 国 こく の 邪 あ 一 ひと き 鬼 おに 共 ども を 撥 はら い 平 たい ら げ

た 皇 みかど 子 こ 伊 い 佐 さ 勢 せい 理 り 毗 ひ 古 こ は 鬼 おに 達 たち から 分 ぶん 捕 と っ た 金 きん

・ 銀 ぎん ・ サ さん ゴ ご ・ 綾 あや ・ 錦 にしき を 車 くるま に 山 やま と 積 つ み あ げ

吉 きち 備 び 国 こくに から 倭 わ 国 こくに の 方 ほう へ と 帰 かえ っ て い っ た。

「 車 くるま に 積 つ ん だ 宝 たから も の、 犬 いぬ が 引 ひ き 出 だ す え ん や

ら や。 猿 さる が 後 あと 押 お す え ん や ら や。 雉 きじ が 綱 つな 引 ひ く え

ん や ら や し

凱旋 かいせん 将 しょう 軍 ぐん 伊 い 佐 さ 勢 せい 理 り 毗 ひ 古 こ 命 めい を 嬉 し 嬉 し と 一 ひと た 長 ちやう 蛇 だ

の 列 れつ は、 東 やまの 山 のみち (山 さん 陽 やう 道 どう) を 西 さい へ 西 さい へ と 倭 わ 国 こくに

の 都 みやこ 目 め 指 さし 行 こう 進 しん し て い っ た。

米

さて

よく 知 し ら れ て い る よ う に、 通 つう 常 じょう、

2709^P 6^行

2688^P 10^行

船で

海上の

2697
-3/389

2702P

2,704P-2/6

桃太郎

113P
吉備津神社

2688P

「桃太郎の御伽噺は、吉備国が発祥の地で
ある」

といわれている。

■吉備中山の吉備津神社の縁起にみえる「吉

備津彦命の鬼退治」という神話か、いつの頃

からかゝり、いわれる桃太郎噺となって、吉

備地方の人々に語り継がれてきた。『旅し神々の里へ』日本

というのである。（『旅し神々の里へ』日本

交通公社、通巻六七〇号、一一三頁。『吉備津

神社』藤井駿、岡山文庫、七一頁等参照）

■なお、『室町時代に、時代色を濃く反映し、

忠孝勇武の徳を讃美する『桃太郎噺』が成立

した、とする説が有力である。（第339・340回『桃太郎』参照）

■いわれる『桃の中からは生れた桃太郎が、犬・猿・雉

を連れて鬼ヶ島の鬼を退治した』

という話である。（『玄辞苑』へ桃太郎参照）

■いうまでもなく、これは御伽噺である。

・とはいえ、それにしても一般的には、

「鬼ヶ島へ鬼退治に出かけた桃太郎は、鬼

を退治した後、分捕物である宝物を積んだ車

文字は、ママ

2,704^P-3/6

紙線を、目立たないように下さい。

カラー
右頁上粉
に大きく
掲載に
下さい

桃太郎たちは、やがて海にでました。そこで船を用意して、みんなでのりこみました。

「わたしが船をこぎましょう。」
犬はそういつて、かいをとり、力づよくこぎだしました。

「わたしはかじをとります。」
さるは、かじをにぎりしました。

すると、きじは、
「わたしはみはり役をしましょう。」
といました。



1309

1409 第339回

桃太郎 鬼ヶ島へ 鬼退治

526^P

『桃太郎』 斎藤五百枝 (画) 講談社 2002年2月15日 (第3刷) 発行 24~25頁参照

・右頁下半分に
掲載して
下さい。

桃太郎 (文部省唱歌)

(一) 桃太郎さん 桃太郎さん
お腰につけた黍団子
一つわたしに下さいな

(二) やりましょう やりましょう
これから鬼の征伐に
ついて行くならやりましょう

(三) 行きましょう 行きましょう
あなたについて何処までも
家来になつて行きましょう

(四) そりや進め そりや進め
一度に攻めて攻めやぶり
つぶしてしまえ 鬼が島

(五) おもしろい おもしろい
のこらず鬼を攻めふせて
分捕物をえんやらや

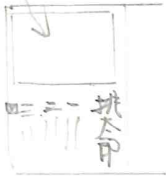
(六) 万々歳 万々歳
お伴の犬や

序分アキ
二字分アキ
さる きじは
勇んで車を
えんやらや

2,704^P 5/6

文字はママ、縦線は、目立たないようにして下さい。

・カラー
・左頁上粉
に大きく
掲載して
下さい。



桃太郎もおうぎをひろげて、
「えんやらの、えんやらの。」
と、かけ声をかけます。

「えんやらの、えんやらの。」
と、声をあわせます。

130G 140G 第340図 桃太郎 鬼ヶ島からの凱旋

528^P

『桃太郎』 斎藤五百枝 (画) 講談社 2002年2月15日 (第3刷) 発行 42~43頁参照

左頁下半分と
掲載して下さい。

2,704^P-6/6

桃太郎

田辺友三郎作曲
納所弁次郎作詞

(一)

桃から生れた桃太郎
気はやさしくて力持ち
鬼ヶ島をば討たんとて
勇んで家を出かけたり

(二)

日本一の黍団子
なさけにつきくる犬と猿
雉も貰うてお供する
急げものどもおくるなよ

(三)

烈しい戦に大勝利
鬼ヶ島をば攻め伏せて
とつた宝は何々ぞ
金銀珊瑚綾錦

(四)

車に積んだ宝もの
犬がひき出すエンヤラヤ
猿があと押すエンヤラヤ
雉が綱ひくエンヤラヤ

*「こどもの歌」中田喜直編集 野ばら社 一九六二年(昭和三十六年)五月五日

重版発行 六八し九頁(文部省唱歌) 八三頁参照

思い出の愛唱歌集(74-1) 146ページ
浦島太郎 曲 2131^P 13/3

道元 930' 無 (は)・りょう
 行梁 カンワ 1988' ？ (な)・まき ② 2600' - 1/3 垂通
 小林 869' ① 周知 小林 371' ② 2,705' P-1/3 ③ 2600' 凡そ 465' ④
 左行 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿
 「不神天皇の 名と、神の名とを取り替えた」
 ① 1803' ② 1805' ③ 1805' ④ 1805' ⑤ 1805' ⑥ 1805' ⑦ 1805' ⑧ 1805' ⑨ 1805' ⑩ 1805' ⑪ 1805' ⑫ 1805' ⑬ 1805' ⑭ 1805' ⑮ 1805' ⑯ 1805' ⑰ 1805' ⑱ 1805' ⑲ 1805' ⑳ 1805' ㉑ 1805' ㉒ 1805' ㉓ 1805' ㉔ 1805' ㉕ 1805' ㉖ 1805' ㉗ 1805' ㉘ 1805' ㉙ 1805' ㉚ 1805' ㉛ 1805' ㉜ 1805' ㉝ 1805' ㉞ 1805' ㉟ 1805' ㊱ 1805' ㊲ 1805' ㊳ 1805' ㊴ 1805' ㊵ 1805' ㊶ 1805' ㊷ 1805' ㊸ 1805' ㊹ 1805' ㊺ 1805' ㊻ 1805' ㊼ 1805' ㊽ 1805' ㊾ 1805' ㊿ 1805'

水もつと船で帰途についたとする 桃太郎 嘯 もあるという

水ており、
 真二つに割れた桃の実の中の陣羽織軍扇
 氣比神宮本殿の桁梁に、桃太郎の姿が彫ま
 があるというこどもまた、興味深い
 應神天皇の垂跡。云々
 記述している。(第四十三章へ去來紗別か
 ら與田別へ、改名の項において既述)
 その氣比神宮に、有名な桃太郎の彫刻は
 があるというこどもまた、興味深い
 氣比の神宮は、宇佐と同體なり。八幡は
 逸文は人氣比神宮条に、
 第二十七章へ 拘奴國の禰に 越前国風土記
 といふことが示唆されているのかも知れない
 鬼ヶ島から、車を引いて帰還する
 船で帰ってきたら
 大・猿・雉に引かせて凱旋した
 という筋になっており、
 鬼ヶ島から、車を引いて帰還する

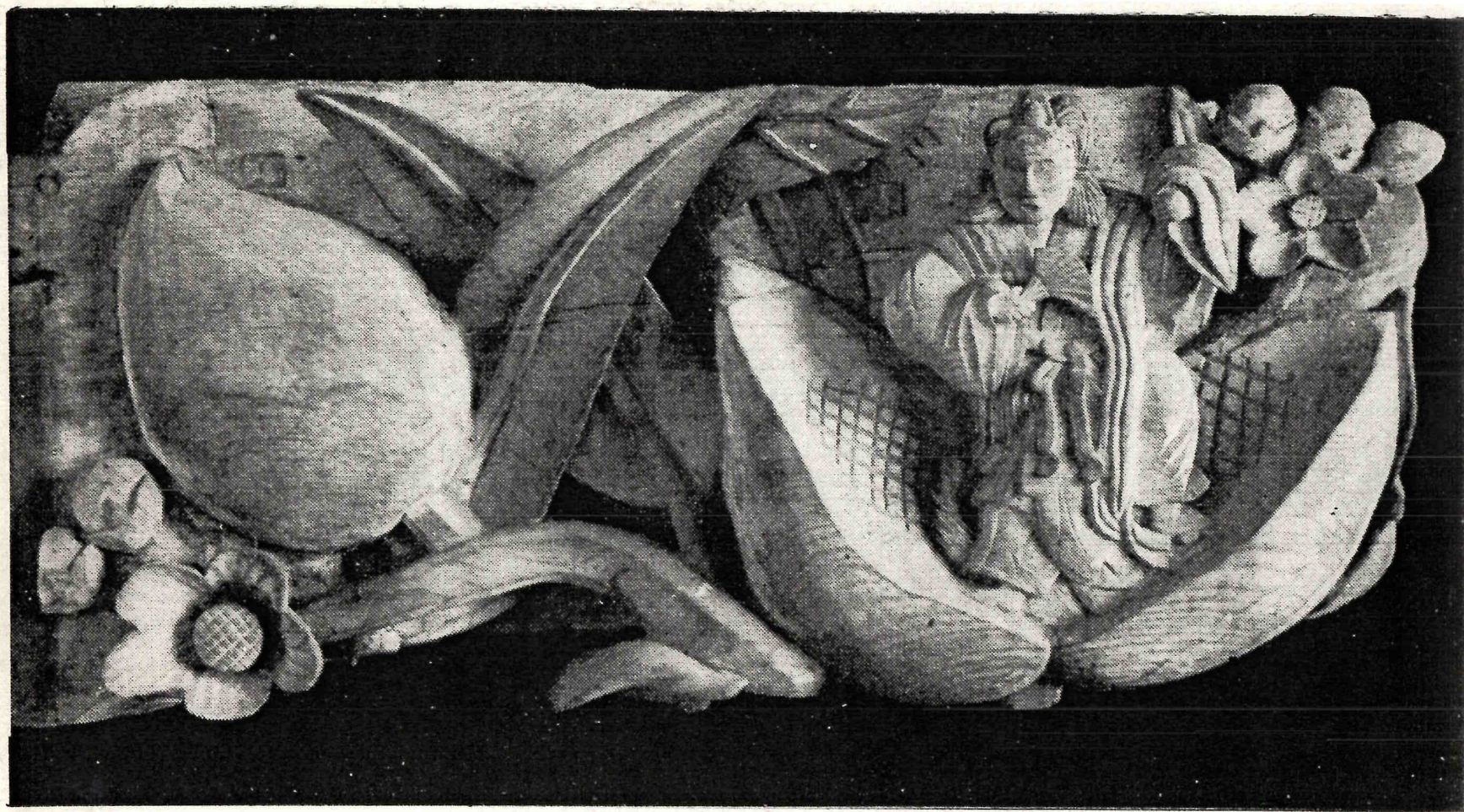
・右頁上半分に掲載下さい。

2,705^P-2/3

岡山県立博物館

彫刻は古い。

著作権許諾は不要だと思えます。



1399

1409

写真図版 460

桃太郎誕生

えちせんけい

こぶしはなちようこ

越前氣比神宮本殿拳鼻彫刻

『古美術見学』

みなもとよむね

源豊泉

星野書店

昭和19年5月10日発行

末尾(46)参照

姿のあとけな

ふんせう
拾巻 1980^p

伊佐勢理毗古命 時社寺 243^p
皇 2688^p

2,705^p - 3/3

2707^p - 4/5 から移動
元(皇) 127^p 2705^p - 4/5

い 扮装は、あとけなくも童話の起源を物語り
特 桃山時代の名作として、其の名、天下に
聞ゆし 早真図版 460 桃太郎誕生
という。 (日本社寺大観し名著刊行会へ氣
比神宮参照)
恐らく、
・ 此の当時日伊邪国に伊佐國に都を置
いておられた天神天皇の皇子日伊佐勢理毗古
(後に襲名して天神天皇になられると解いた
い)の鬼退治の様子か、―――後年、御伽噺
として語られるようになったのであろう
・ また 桃山時代になつ
た時 日伊佐と一体とされる 日氣比神
宮の本殿に 桃太郎の勇姿が彫まれたの
と想像される。
■ なお、孝靈記に、
「比古伊佐勢理毗古命」亦の名は大吉備津
日子命
とあり、孝靈紀二年二月条には、
「彦五十狭芹彦命」亦の名は吉備津彦命
と記され、伊佐勢理毗古命(彦五十狭芹彦命)と云う名は、伊邪國に由来しているのではなからうか。

下

2,706^P

改行

いふほう 宿望え1061^P

いかあ 唯み合いえ96^P

日 拘奴国に平定した。よって、よう
やく、長い長い反目の連続に結着がつき、
一 倭国の者たちが久しく待ち望んでき
た平安の時が訪れた。
一 かもここに、長年の宿望を果たした倭国は
一 挙に、九州地方・中国地方一帯の広大な領
域を支配することになった。
一 実に、喜ばしい限りだ。
一 倭人達は、今、その大勝利に酔い、水、火
た、三韓の地を得た時と同様に、いやそれ以
上に、倭国中が狂ったように湧き返って、
あんなにも身近かにあって、烈しく競り合っ
てきた強国、日 拘奴国を、とうとう、ついに
自らの手で攻め滅ぼしたのである。
一 倭国の兵達は、声高に戦いの歌を歌い、手
ぶり身ぶりで戦闘の様子を再現し、酒を飲み、
一 時のたつのも忘れ、呂律が廻らな
くなるまで、自慢話に打ち興じた。

*

ひと

①

茅葺宮
(書) 2708-1/2

2707-1/5

吉備津神社
日本社年大概
437

すいふ云々1176
記(書)127

神武紀196
紀ハ126

(書) 2693-1/2
2795-1/4
529

大吉備津日子

皇子伊佐勢理毘古の武勳は輝き渡った。

伊邪國(宇佐國)の都の父帝(応神天皇)

は、皇子をお譽めになり

「おまえは忠誠と勇武をかね、またよく中

国平定の功をたてた。よっておまえの名を改

めて大吉備津日子としよう。吉備國へ赴き、

土民を綏撫し、拓殖を図るがよい。日臣から道

と仰せられた。へ神武即位前紀へ

臣への改名(参照)

皇子大吉備津彦は、吉備國へ下つていっ

た。そして、温羅達(ヤマト)が都としていたあたり、

吉備の中山の西麓に茅葺宮を作つてここ

に住み、吉備國の統治にあたった。(「吉備

津神社」藤井駿、日本文教出版、一八頁参

照)

尚、被征服者達の尊崇を得る為

征服者(倭人)達は、かつての温羅達の王宮

吉備津神社 22[?] 紀上 243[?] 注 20
 2707[?]-45
 2707-25
 紀には(大)な
 吉備津神社 16[?]
 吉備津神社 19[?] 紀上 427[?] 注 20
 日本書紀 437[?] 下 219[?] 注 20
 427[?] + 280[?] = 707[?]

の地、もしくはその近傍に居を定めて君臨し
 ようとしたのであろうと想像される。
 ■その後、大吉備津彦は、意図した錯誤が
 あるのだらうか、何とも奇妙な(こと)ながら二
 百八十一歳の時に山崩御され
 宮の後方の「吉備中山」の山上に築
 かれた茶臼山(海拔一六〇m)に葬られたと
 いわれている。(※なお、応神紀には一二〇歳崩とある。)
 ■「吉備津彦命」が葬られたという茶臼山の
 墓は、南北一〇八間(一九四・四m)、東西
 五七間(一〇二・六m)もある巨大な前方後
 円墳で、土地の人々はこれを「御陵」とか、
 「御廟」とか呼んでいたが、明治七年(一
 八七四)、宮内省(現在は宮内庁)の所管と
 なって、「大吉備津彦命墓」と改称され、今
 日にいたっている。(「吉備津神社」藤井駿
 日本文教出版、一九頁参照)
 ■ここに、「日記紀」や「新撰姓氏録」などを
 基に、大吉備津日子および異母弟若日子建吉
 備津日子の後裔について見ておこう。
 ■大吉備津彦命の子孫には、肥後国の葦北国

造となつた三井根子命がいます。

・しかしその他には、文献上、大吉備津彦命の子孫の豪族は見えない。

②ところが一方、吉備地方に蕃衍（繁殖）し

た古代の吉備の豪族は、いふれも弟の若日子建吉備津彦命の後裔である。

・そして、これらの中には、朝廷に仕え、国家に勲功のあつたものが少なくない、

という。（「吉備津神社」藤井駿、日本文芸出版、二一―二二頁参照）

■定かでないが、この物語では、

①皇子大吉備津彦命が、後年襲名して、応神天皇の名と位と歳とを受け継いだ為、――

②大吉備津彦命の子孫として文献に明記される豪族が極端に少ないのであろう。

③皇子大吉備津彦命が即位された後は、恐らく弟の若日子建吉備津彦命が吉備地方を掌

握したのであらうと仮定してみたい。

※

⑦2688P ⑧2705P-3/2未入移した
 紀上230P 2~3行
 改行 ⑧2705P-3/2未入移した

2,707P-4/5

⑧2707P-3/5 10~11行

⑧2707P-3/5
 350年→20才とす
 281
 631+20=650年

なお

吉備中山の山上に築か小茶臼山か、大

吉備津彦命(応神天皇)の御陵なのか、それ

とも、弟の若日子建吉備津彦命の墓なのか、

といった二点についてはよく分らない

というべきかも知れない。

しかし、曰御陵とか、曰御廟とか呼ば

れて来たというのだから、茶臼山は、

応神朝幾代目の応神天皇の御陵である可能性

加高いように思える。

なお、孝靈紀二年二月条には、

「彦五十狹芹彦命、亦の名は吉備津彦命」

と記されている。

彦五十狹芹彦命という名は「伊邪国」字

に由来しているのだろうか。

*

2795¹ - 4/4

2,707⁹ - 5/5

④ 2794^p - 2/4
紀上 374^p

ひまじん 1888

孫の子(子) 2794- $\frac{1}{4}$

文学大系、岩波書店、三七五頁、注八、九参

兄媛は、心神天皇の後宮に召されて寵愛さ
れたか、心神天皇の二十三年三月、望郷の思
い募り、心神天皇の許可を得て吉備国へ
帰っていった。

そのあと、
心
神天皇
もまた、
兄えいめ媛ひめへの慕情

をとお通とつて、吉備きびの日ひ葉田はだの葺宇宮ふみや乃のへ行幸ぎやうこうされ

た、という。(応神紀二十三年三月条参照)

な、お、こうしたことの詳細について、第

四十六章へ兄媛えひめの項こうにおいて述べたい。

144429(水) 木口にて
吉備津神社 28'86"

2,708^P - 1/4

吉備津神社 2688^P 「ただ」 2911^P
24^P 2907^P - 1/4

2907^P - 3/5 末

吉備津神社

吉備津神社が、いつ誰によって造営されたのかは、確かな文献がなく、明白でない。

①ただ、社伝によれば、吉備津彦命から五代の孫、加夜臣奈留美

命は、中山の西麓に建てたと伝わる。茅葺宮の齋

殿の跡に社殿を営み、吉備津彦命を祀った。これが吉備津神社の正宮（本殿）の起源であ

るという。（写真図版 461 参照）

②また一説に、若日子建吉備津彦命三代の孫が、はじめて社殿を造ったという。

③さらに一説には、仁徳天皇が吉備海部直の娘黒媛を慕って難波から吉備国へ行幸された時、大吉備津彦命の功をよみて社殿を創建

された、とも伝えている。

なお、吉備津神社近傍には大飼姓の家が多

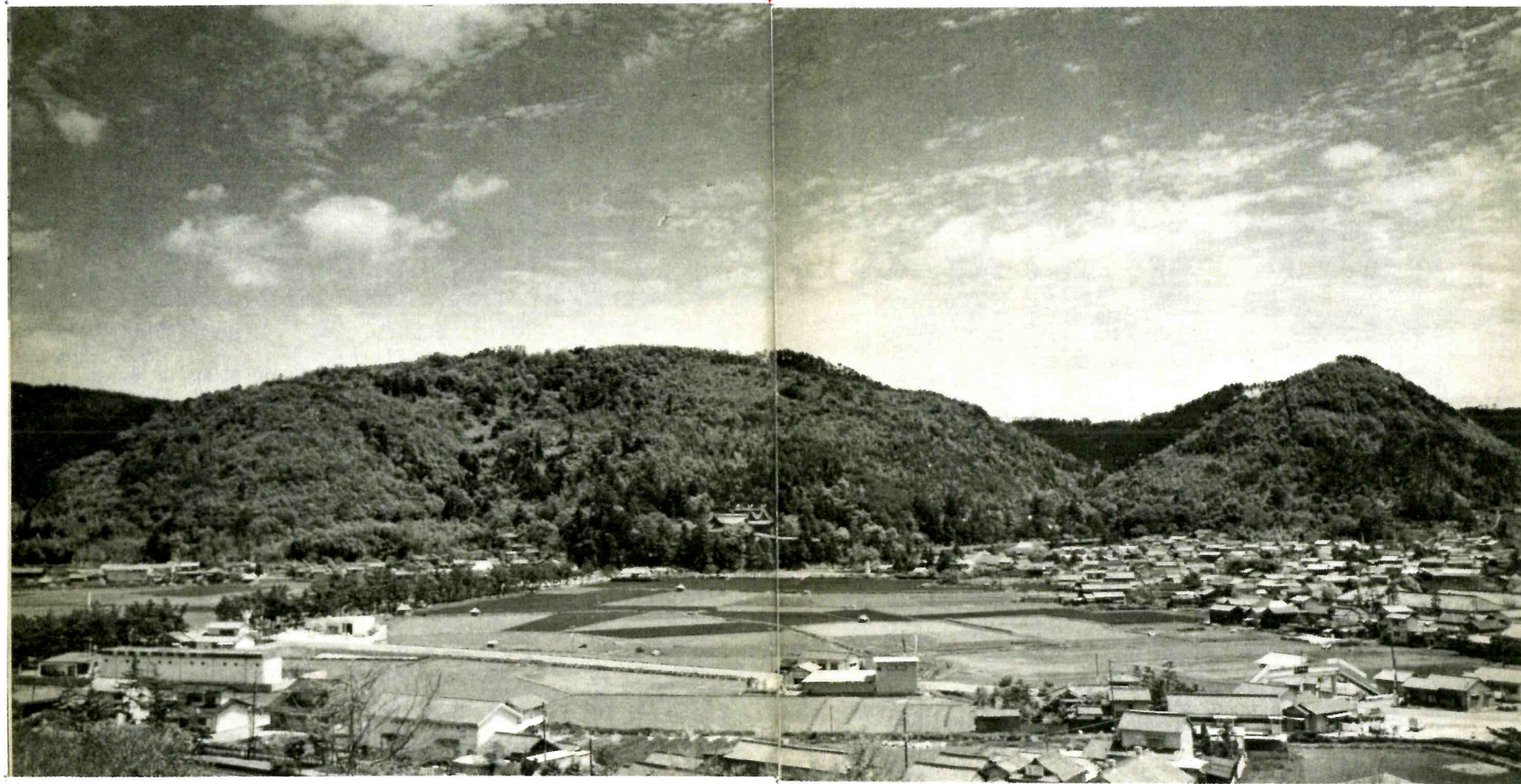
い。大吉備津彦命に付随して来た軍用大部

隊すなわち当時の大養部の子孫だという伝え

・頁の上半分に、左右大きくはみ出させて掲載下さい。

2,708^カ - 2/4

縦線が目立たないようにしておいて下さい。



北
↑記載して下さい

南
↑記載して下さい

↑山麓に吉備津神社がある。1169

1469

42741た

写真図版461

吉備の中山(175m)

『吉備津神社』

・^{おかやま}岡山市と^{くら}倉敷市とのほぼ中間に、「吉備の中山」という山がある。容姿秀麗で、古来、歌枕として著名。
・^{らんと}頼山陽は、この山容を愛して、【^{りざん}鯉山】と名づけた。

『吉備津神社』^ふ藤井 駿 日本文教出版 昭和58年7月1日(12版)発行 13～15頁参照

540^P

26937
1/712

タイロ 883P
892Pへ3

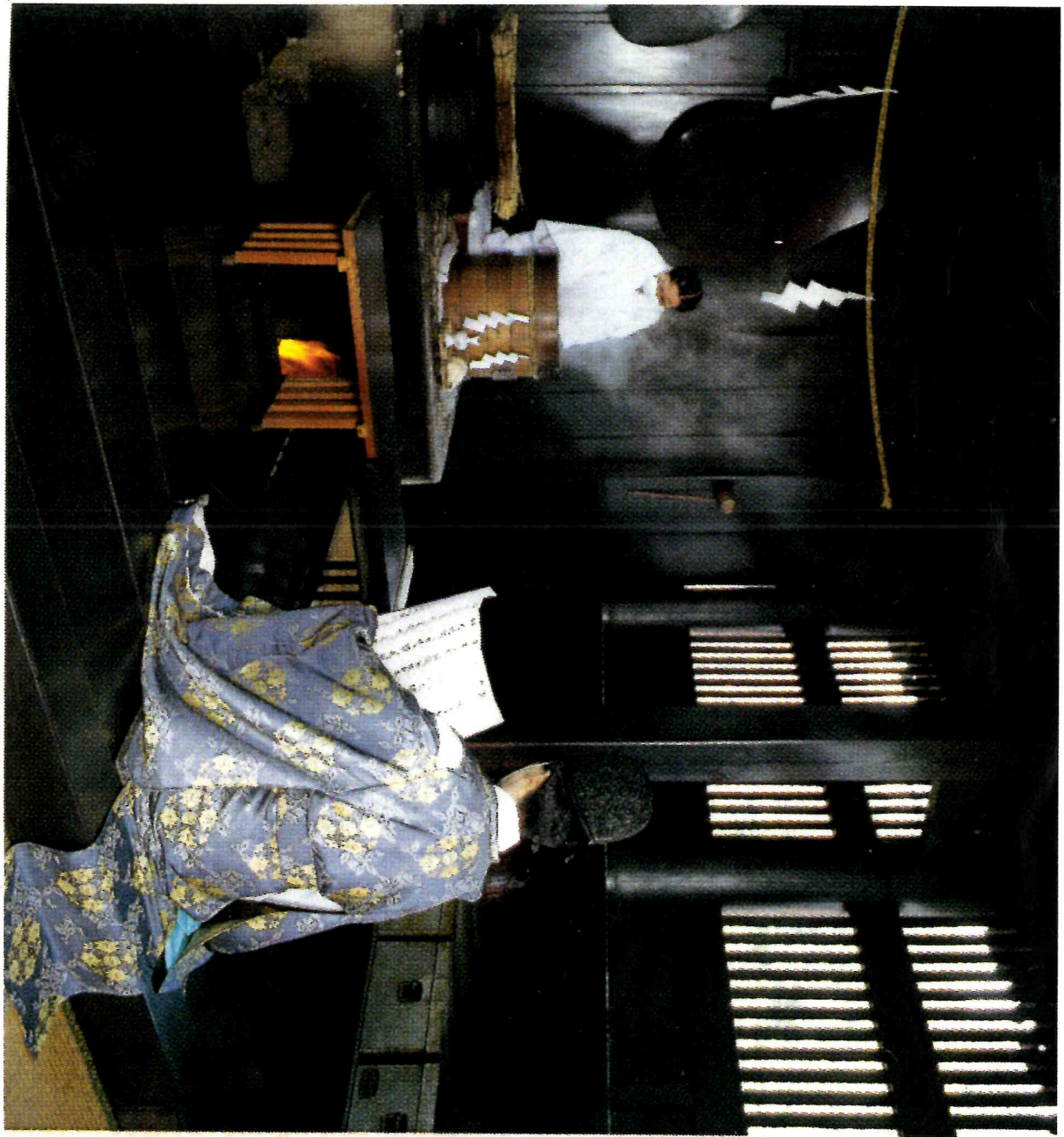
吉備津神社 79P
2,708P-3/4

1932
H24.2.18-1855
773

おにを
鬼和祭 893Pで述べた
561.8.14(木) 大養毅 元 143P

があり、昭和初期の総理大臣・大養毅（一八
五五）一九三二、昭和六年首相、翌年の五
一五事件で殺害された（その家は大養姓
の宗家であるとの伝承をもっている。（「吉
備津神社」藤井駿、日本文教出版、二四〇二
六頁、八六頁。「広辞苑」へ「大養毅」参照）
*
吉備津神社の金殿の鳴釜神事は、昔から有名
であり、また現にその神事が常に行なわれて
いるだけに、民俗学の対象として今日非常に
注目されている。（写真図版 462）「吉備津神社
藤井駿」日本文教出版、昭和五十八年七月一
日（二版）発行、七九頁参照）
吉備津神社では、五月中卯の日に「おなご
祭」（おんなご祭ともいう）が行なわれる。
「鬼和祭」の転訛（なまり）であろうとい
う。
・温羅達の霊を和ませる（なだめる）為（ため）に「鬼和
祭」を行なうようになったのだらうか（第十
章へ東の「拘奴国」の都）において既述）

・カラー
・1頁全面に大きく
掲載下さい。



2,708^P-44

1409 写真図版 462 吉備津神社の「鳴釜神事」

1309 『全国一の宮めぐり』学習研究社 2004年1月15日発行 138頁参照。

- 15. 御簾殿 (重文) で行なわれている
- 16. 床下には、社絶を戦いのすえ、大吉備津彦命に敗れた鬼神・温羅の首が埋められているという。
- 17. 「阿曾女」という巫女が、鉄釜に湯を沸かし、その鳴り響きかたで吉凶を占う。

全口新井要覧 300⁷
2,709⁷
566⁷
赤磐
山灰などか
固まった岩

古墳の時代を知らぬと云ふに地味
27,28
1288⁷
タイトル

北九州から運ばれた石棺や石障の石材
岡山県の総社市は、もと国府が置かれてい
たところで、いわゆる吉備文化の中心地であ
る。↑↑↑↑↑「広辞苑」へ「総社」参照
そして、総社市を中心とする一帯には巨大な
古墳が数多く見られ、広くよく知られている。
大吉備津彦命をはじめとする皇室にゆかり
の深い者達が、この地域に大きな勢力を誇っ
たことを物語っているであろう。
さて、倉敷考古館の研究により、造山古
墳の石棺や、千足古墳の直弧文が周られている石
障の石材は、北九州地方から運ばれてきたことが
判明した。と、いうや（「日本の伝説」13）
山陽、世界文化社、一〇五頁参照）
また、赤磐郡山陽町の小山古墳（吉備地方
第三位の巨墳）の後円部の舟形石棺は、断
面から判断して、阿蘇の外輪山を形成してい
る熔結凝灰岩であろう、といわれている。
「こんなには大きなレンズ状の熔結が見られる
石は、近い処では、九州阿蘇山にしかなく、
岡山県内では、まず見られないものだ」

というのである。(「吉備古代史の未知を解
く」間壁忠彦、新人物往来社、三三〇三五頁

参照)

■

古墳時代の石棺については、近い処に良

石材がある場合にはその石材が用いられ、運

ばれてもせいぜい各地方の国の内程度、と考

えるのが常識だ。た。

■それなのに何と、吉備地方の巨大古墳の石材

は、北九州地方からはるばる運ばれてきた

のようである。

■これは一体、何を意味しているのだろうか

か。

■この物語においてのは、

① 中国を平定した倭人達は、総社を中心と

する地域に居住して、統治を行なった。

・国府が置かれた総社あたりは、大倭国(九

州)の都に準ずるほど大いに繁栄した。

② そして、貴人(若日子建吉備津彦命の子孫

など)がこの地で亡くなった時、亡骸をあら

て北九州へ運ばず、総社の周

H30(2018)7.7(土)~7.8(日)
 H11.1.30(土)
 H31(2019)2.11(月)~2.11(3回) 岸< 小林 625
 令和元(2019)7.17(日)~7.19(3日) 岸< 483
 令和2(2020)2.27(木)~2.29(日)

りくあげ 陸揚 2310
 3/き上げ 持ち上げ 2,711

天つき 改行

ほう 小林 1031
 障 13リ、つた7 仕切 955

こと

2/29 1/29
 2/28

米

は、その近傍の海岸へ運ばれ船によって曳行され、
 所へと運ばれ掘えたのであろう
 と思われ。置か水

③ただ、望郷の思いは、切なるものである。
 ・そこで、今は亡き人の死後の世界のために
 墳墓の内部に用いられる石棺や石障(石の仕
 切り)などの石材を北九州から運ばせ、
 めてものなぐさめとした。
 いろいろなところから集められ、
 阿蘇の溶結凝灰岩などから切り出された石材
 推察するところ、
 阿蘇の溶結凝灰岩などから切り出された石材